

## 令和元年度 第1回学校評議員会議録

1 日 時 令和元年6月19日(水) 15時～16時30分

2 場 所 盛岡第四高等学校 会議室

### 3 参加者

学校評議員 高橋和夫、晴山文夫、高橋 修、大河内富美子、三輪健志  
学校長 五日市 健 副校長 北田 義徳、上野 光久  
主幹兼事務長 中川 良彦 総務主任 山本 敬一  
教務主任 佐々木 順一 生徒指導主事 松田 光弘  
進路指導主事 大槻 英樹(代理：畠澤 秀)

- 4 次 第 (1) 開会のことば  
(2) 校長あいさつ  
(3) 出席者自己紹介  
(4) 学校概況報告(資料説明)  
① 令和元年度学校経営について  
② 令和元年度重点課題について  
・教務課  
・総務課  
・生徒指導課  
・進路指導課  
③ その他  
(5) 意見聴取・ご提言  
(6) 閉会のことば

### 5 会議の内容(概要)

- (1) 開会のことば(副校長) … 省略  
(2) 校長あいさつ  
・本校学校評議員のご承引に感謝、委嘱状をお渡しでき安堵している。  
・平成25年度から27年度、本校の50周年を挟んでの3年間を副校長として在職していた。  
・本年度入学生から6クラス、現在全校生徒は817名。日常的には落ち着いた学校生活が営まれていると言える。  
・学校評議員会という制度は平成12年に成立し、20年近く経っているもので、岩手県では平成14年には全学校で設置されたもの。保護者から意見を聞く機会はあるが、こうして外部の方の評価やご意見を伺うのは貴重な機会である。  
(3) 出席者自己紹介 … 省略  
(4) 学校概況報告(資料説明)  
① 令和元年度学校経営について  
・「学校経営計画」は今年度から県で統一された様式になった。  
・「四高ビジョン21」は以前からのもので、継承すべく掲載。  
・本校は盛岡の南側に位置し、生徒は40以上の中学校から来ており、広域に渡るので、「地域住民」「周辺の中学校」については、必ずしも学校周辺の地区のみではないと思っている。  
・「校訓・教育目標」の四大綱領とは、「誠実・敬愛・大志・真理」という徳目で「誠実に生き、他者への敬愛を忘れず、大志を抱き、真理を追求する」のが理念。  
・今年度の重点目標は、「学力の向上と授業の充実」「進路目標の実現と進路実績の向上」「基本的な生活習慣および規範意識の確立」「部活動、特別活動の充実」、そして、評価してもらったことをどうやって学校として改善・向上につなげるか、という

「PDCA サイクルの確立および学校評価の改善」の5つ。

- ・本校は人気が高く、今年度の入試では県内で最も高い倍率だったこともあり、学力の幅としてはあまり広くない状態。
- ・進路に関するアンケートからは、およそ9割が四年制大学への進学希望、四年制大学進学希望者の9割が国公立大学進学、またその7割が地元の大学進学を希望している状況。
- ・岩手大学と岩手県立大学をはじめとして、東北は仙台までの大学の志願比率が高い。進路選択として県外・関東にも挑戦させたいのが課題。1年生の時から、進路意識を高く覚醒させて、県外・全国にも目を向けてほしいと思っている。
- ・登下校時の交通事故を特に心配している。このことについては、メール配信により保護者にも注意喚起している。安全管理について引き続き指導していく。
- ・生徒の出欠席については、現在、遅刻及び欠席が毎日1%程度で落ち着いている。生徒は皆一生懸命やっている。
- ・20数年前から沖縄県立八重山高校との姉妹校締結により交流している。本校から10月に約10名の生徒が約一週間滞在し、八重山高校からは、1月に約10名の生徒が一週間盛岡に滞在するもの。また、交流は生徒同士だけでなく、PTA 同士のつながりも継続しており、本校の特色ある事業の一つとなっている。

◎司 会：ここまでのところで、質問はあるか。

◇ Q【A評議員】

「学校経営計画」の「今年度の重点目標」の「エ 部活動、特別活動の充実」の達成指標として「学習と部活動の両立（70%以上）」とあるが、具体的に何をもって両立しているかと判断するものか？

➤ A【校長】

学校評価アンケートに学習と部活動を両立しているかという質問項目があり、それを目安にしている。

昨年度の生徒の回答では、両立していると回答した生徒が71%、前年度は約60%。数値として学習と部活動を両立できていない生徒が40~30%いることになるが、部活動に全員加入している中で、授業の予・復習をやり、週末の課題も提出していれば両立していると考えられると思うが、本校生徒は自己評価が厳しいようだ。

◇ Q【B評議員】

部活動は全員強制的に加入か。

➤ A【副校長】

原則1・2年生は全員加入で、3年は一部任意になる。活動は自主的であるべき。

➤ A【校長】

全国的に部活動は強制ではないという流れもある。

◇ Q【B評議員】

自分の時は1年生の時は強制だったので反発もあった。活動が自主的であれば良いと思う。生徒一人ひとりの所属部は把握しているものか。

➤ A【副校長】

把握している。

➤ A【校長】

生徒の住所や所属部などのデータは、セキュリティーをかけた状態で記録している。ただ、所属部での活動状況については部顧問が把握しているが、その詳細を記録はしていない。

## ②令和元年度重点課題について

### 総務課

- ・卒業式は、卒業生 280 人に対し保護者が約 400 人であるため、一昨年度の卒業式から、1 年生を入れず、2 年生全員と生徒会だけにした。非常時の対応に備えたものであり、学級減の完成年度まで継続したい。
- ・PTA 関係では、事業が増えてきたので削減したものやスマート化したものがあり、今年度はそれを受けて、より質の高い事業を進めていきたい。
- ・八重山交流については、現在、交流派遣希望生徒の募集を始めたところ。夏休み中には派遣生徒を決定したいと考えている。
- ・メール配信については、極力いろいろな場面で配信したいと思っている。もっと多く保護者に対して情報提供できればよいと思っている。現在の登録数は、保護者登録 934 件、生徒登録 464 件、教員登録 45 件、登録総数 1422 件である。

### 教務課

- ・7 月の「互見授業週間」とは、先生方が自分の教科や他教科の授業を見ることで自分の授業の参考にし、授業改善をしようというもの。
- ・11 月実施の「学校行こう週間」は、今年度は 11 月のみにした。今年度は、近隣の中学校の保護者及び地域の方にも案内を出し、午前午後各 1 回、時間を決めて教務の担当者が校内を案内する。中学生の保護者としては、11 月が子どもの進路決定の時期と合っており、来校する保護者は、在校生の保護者よりも中学生の保護者の方が多いようだった。
- ・「朝読書」は継続して実施している。今年の 1 年生から、週に一度の総合的な探求の時間に、各クラスに置いている新聞各紙を素材として、各クラス 4 人 1 グループでディスカッションや発表活動をしている。また、1 年生の後半から 2 年生の前半にかけては、自分の興味のあるテーマの新書を読んで意見をまとめるなど、小論文にもつながられるよう生徒の興味を広げ、関心を高めていきたいと考えている。
- ・現 2 年生では、新書の読書活動を経て各自の研究テーマに取り組んでいる。
- ・コース編成について、本年度入学生 6 クラス 246 名の 4 月下旬での進路希望調査では、文系が約 90、理系が約 100、未定が約 50 なので、来年度 2 年生は、文系 3 クラス、理系 3 クラスになる見通し。

### 生徒指導課

- ・今年度の重点目標を 4 つ掲げてスタートした。
- ・高総体がほぼ終わり、水泳を残すのみ。東北大会に出場したのは、陸上部、野球部、テニス部。
- ・インターハイ出場は、テニス部 1 名が個人戦でインターハイに出場する。
- ・自転車事故は、昨年度 26 件、一昨年度は 13 件。ことあるごとに注意喚起しているがなかなか減らない状態。本年度は、本日時点では 8 件。8 件のうち、車との接触事故が 4 件、自損事故が 4 件。自損事故 4 件のうちの 2 件は 4 月当初に発生したもので、雪が残って凍っていたところで起きた。自転車の自動車との接触事故については、幸い大事には至っていない。T 字路や交差点で路地から出てきた車と、歩道を走っていた自転車が接触するケースが多い。折に触れ、生徒全体へも注意喚起しているが、その後も自転車通学生徒の走行マナーに対する苦情が寄せられ、事故も起きてしまっている。我が事として捉えてくれない生徒もいるのが現状。引き続き粘り強く指導していく。
- ・いじめについては、昨年度の認知件数は 0 件、一昨年度は 1 件。2 年前に「いじめ防止対策推進法」の一部改訂があり、いじめと思われる事案があったら、速やかに校内に設置している「いじめ防止対策委員会」において状況確認後、いじめかどうかの認知を決める。いじめ防止対策委員会のメンバーは、校長・副校長、生徒指導主事、教務主任、教育相談主任、養護教諭、該当学年長。

- ・ いじめ防止対策委員会については、先日の職員会議でも、いじめと疑われる事案が起きたら早急に同委員会を立ち上げる事、及び、県に報告することを周知したところ。
- ・ 夏季休業前と冬季休業前には、生徒たちにいじめは絶対に許さないということを強く伝えている。本校生徒の中には、自分の中で解消・解決できている生徒もいると思われるが、今後も情報収集を含め、生徒の安全を考えた指導を進めていく。

#### **進路指導課**

- ・ 平成30年度卒業生の国公立大学合格は123名、29年度卒業生は139名、28年度卒業生は130名で、毎年約半数の生徒が国公立大学へ進学しているが、目標としている60%には届いていない。
- ・ 岩手大学・岩手県立大学の推薦入試結果は例年並みだったが、一般入試では前後期で10名ずつ減。これは北関東の大学や東北の大学を志望した志願者が、次の志願先として岩手大学・岩手県立大学にしていることが考えられ、その影響があったと推測している。
- ・ 来年度以降、今年不合格になってしまった層の生徒の学力をどのくらい上げられるか、本校の中間層をいかに上げるかが課題。
- ・ 私大については、定員より多く合格者を出す私大が無くなったことの影響か、本校として厳しい状況であった。今後も大学訪問などして情報収集していく必要がある。

◎司 会：ここまでのところで、質問はあるか。

#### ◇ Q【A評議員】

第1期と第3期の「互見授業週間」に一人2つずつ授業を参観し合うということだが、参観した後はどうしているものか。

#### ➤ A【教務課】

見た授業について、先生同士で会話をしたいと考えている。記録など形として残してはいない。授業者・参観者とも負担感につながらないようにし、授業後に語り合ってもらいたいということが目標であること。

#### ◇ Q【A評議員】

授業を見た後のカンファレンス（協議）をできれば良いが、感想などのメモを渡すのも良いのではないか。

生徒指導について、いじめの起きない環境づくりが重要であると思うが、具体的な取り組みはどういうことをしているのか。

#### ➤ A【生徒指導課】

入学式の日でのPTA入会式で、保護者に対して「学校いじめ防止基本方針」を本校のホームページに掲載していることのアピールをしている。

また、いじめを絶対に許さないということについて、生徒の前で話すようにしている。本年度のキーワードは「生徒の居場所作り」「生徒同士の絆作り」であり、そのために、学級担任、副担任、教科担任、部活動顧問に、生徒の絆や関係を注意深く観察してもらっている。

「学校生活アンケート」を年に2回実施し、いじめの防止及び早期発見に努めている。

#### ◇ Q【A評議員】

校長会では、スマホの使用に関する申し合わせはあったか。

#### ➤ A【校長】

全県的に午後9時（一部10時）以降は使わないようにする決まりを決めている。本校でも午後9時以降は使用しないよう連絡している。

◇ Q【A評議員】

一つの学校だけでは限界があるので、地域で申し合わせをした経験がある。  
スマホについて、生徒たちの自主的な取り組みはあるか。

➤ A【生徒指導課】

本校では、学校に着いたら電源は切って鞆にしまうことにしているが、帰る前に授業変更黒板は撮影してもよいことにしており、特段、不平不満は出ていない。

ただ、スマホ保持の低年齢化は進んでいると感じるし、昼休みに隠れて使用する件数は増えている実態もある。教師が見回りするなどの姿勢を示し、昼休みの使用があった場合は、保護者に連絡する、あるいは何日間か預かるなどの対応をしている。

◇ 【D評議員】

交通安全に関しては、マナーの悪い生徒さんはいる。例えば、横断歩道で信号が赤になったところを渡った生徒もいた。

また、実際、お互いに急いでいた場面で、衝突スレスレになったことがあった。自分が怖い経験をしなければ、実感が湧かないものなのかもしれない。

対策として、例えば、交通安全ビデオを見せるなどしてはどうか。小学校入学時には、子どもたちはリアルなものを観ている。耳で聞くより目で見ると効果的だと思うので、方法として考えていただきたいところ。

③その他

**教育相談の取り組みについて【副校長】**

- ・本校の教育相談への取り組みについて説明。資料はない。
- ・本校の教育相談課は4名の職員で構成されている。内、1名は養護教諭で保健厚生課と兼務。
- ・入学前の中学校訪問について。1学年団と連携し、入学者の多い中学校を訪問し、特別な支援を要する生徒や、その他心配な生徒に関する情報の提供を受け、生徒理解と学級編成の参考とするというのが目的。また、入学者数の少ない中学校や遠方にある中学校に対しては文書で照会を依頼し、全ての中学校から情報提供を受けているところ。
- ・1年生対象の対人スキルアップ講座の実施について。新しい人間関係の中で、多様な個性を持つ相手を受け入れ、豊かな対人関係を育むことが目的。本校のスクールカウンセラーを講師として、4月18日（木）に本校体育館で構成的グループエンカウンターを行った。生徒からは大変好評で、不登校の予防やいじめの防止に一定の効果がある取組であったととらえている。
- ・スクールカウンセリングについて。本校は2名のスクールカウンセラーが、それぞれ年10回程度来校し、カウンセリングを実施している。1日当たりの相談は3名までとしているが、時には定員をオーバーする日もあるほど、人気がある。
- ・今年度、保健室登校や相談室登校は現時点では無い。一方、いわゆる不登校とは断定できないものの、心身の不調による欠席の多い生徒はいる。悩みの原因としては、健康上の不安、成績の不振、家族との不仲、将来への不安などがあるものと捉えている。今後ともスクールカウンセラーの指導・助言の下、教育相談課が担任をバックアップし、一人で抱え込まず、組織的に生徒を支援していきたい。

◎司 会：全体を通して質問や意見を伺いたい。

◇ 【E評議員】

自転車事故が起きてしまうのは仕方がないが、減らす取り組みは必要ではないか。

交通安全のビデオを見せるのも継続的に必要だが、焦らないで来させるという意味からすると、例えば、せっかく作った「朝読書」はひとつの文化だが、朝の事故を

減らすために、その10分間を譲るので、焦らずゆっくり来ても良い、結果として朝読書ができなくても良い、くらいの思い切った取り組みがないと事故は減らないのではないかと。もっと言うと、30分与えるから焦らないで来なさい、くらいの取り組みをしなければ減らないのではないかと。

交通事故は下校時もあるだろうが、まずは朝の事故を減らすことについて、考えさせる方法としてあり得ると思う。

事故が増えているのであれば、対策案をひねり出す必要がある。自転車通学を止めることもその一つだろうし、小学生にやるような交通安全講座なども、高校であれば大人として感じてくれるものがあると思う。

◎司会：中学校のスマホやSNSについて、状況をお話いただきたい。

◇ 【C評議員】

特定の中学校に限らず低年齢化している。盛岡市内の中学生は、「スマホルールネット5か条」というものによって、夜9時以降は使わないことになっているが、実態の詳細は不明。

現在問題になっているのは、LINE等SNSでの誹謗中傷、児童ポルノ関係が話題になっている。小学校でも同じようなことがあると聞いている。小学校1年生からスマホを持っている例もある。

(5) 意見聴取・ご提言

◇ 【A評議員】

盛岡四高は、改めて活気ある魅力ある学校だと感じた。アンケート調査の、自分たちの学校が魅力ある学校だと感じている割合が、生徒・保護者・教師とも高いことは素晴らしいことと思う。また、入学してよかった入学させて良かったという数値も高いので、活気と魅力ある学校だと感じる。

新学習指導要領の、主体的対話的で深い学びをどのように実現させていくのか、入試制度も変わるので、それに向けた学校全体の授業改善の取り組みが不可欠。学校全体でどう取り組むかということが、盛岡四高だけでなく、小学校中学校を含めた大きな課題なのかなと思っている。

◇ 【B評議員】

盛岡四高の生徒は、皆さん優秀という印象。勉強も部活でも優秀な人材がいる。町内会としては、通学時間の交通事故はぜひ削減してもらいたい。

これからも自由に生徒を伸ばす学校であるようお願いする。

◇ 【C評議員】

医大の移転に伴い、本校でも自転車通学をやめようかという動きが出ている。見前中学校も自転車通学をしていないので、自転車に乗ったことの無い生徒が盛岡四高に通学してくるという状況もある。交通安全を高校としてどうするかということも考える必要があるのだと思う。

また、期待としては、公立高校最後の甲子園出場校である盛岡四高の、令和最初の公立高校としての甲子園出場を願っている。

◇ 【D評議員】

人気のある学校で、周囲に聞いても盛岡四高に入学させたい方も結構いる。このままの雰囲気を作ってほしい。転退学者もほとんどいないので、これからもきちんと卒業できるようであってほしい。

気になったのは、学力について。学校生活調査の分析結果にあるが、授業で十分な学力を身に付けているかという問いに対し、保護者が50%しかいないので、そこをもう少し上げてほしいところ。

◇ 【E評議員】

世の中ではいろいろなところで人手不足が起きている。

教育実習生が少ないという話も同様かもしれない。盛岡四高には教師を目指す可能性のある生徒がいっぱいいる。先生方は、今いる生徒の何人かは未来の仲間になるのだと思って欲しい。

先生ってこんなにラクなのだというを示せば、教師を目指す生徒も出てくると思う。しかし、先生方を見ているとそうは見えないので、なかなか難しいと思うが、先生になる可能性がある生徒がいると言えるのは学校だけなので、頑張っていたらと思う。

◎副校長から事務連絡

- ・ 規程の確認。第3条第3項の但し書き「再任は2回を限度とする。」とあること。
- ・ E評議員は、残念ながら今年度限りということになること。
- ・ E評議員は、次回の会議までに後任者のご推薦をお願いしたい。
- ・ 次回会議の予定は、2月中旬を考えている。(昨年度は2月19日(火))
- ・ 曜日の希望等あれば、早めに副校長までお知らせ願いたいこと。

(6) 閉会の言葉 省略